

人気の寄せ植え講師
土谷ますみさんに教わる

お気に入りの品種でいくつも作りたくなる!

パンジー&ビオラの寄せ植え

冬のガーデニングシーズンに欠かせないパンジー&ビオラ。毎年たくさんのお花の色と花形の苗が園芸店の店頭には並びます。寒さに強く、丈夫で春までの長い期間、元気に咲いてくれます。地植えでも鉢に単植でも華やかですが、今年の冬は鉢やリーフ類にこだわって寄せ植えしてみませんか。誰かに自慢したくなる、おすすめのパンジー&ビオラを使った寄せ植えをご紹介します。



用土は何を使えばいい?

寄せ植えに使う土は、あらかじめブレンドしてある草花用培養土がおすすめです。保水性、排水性のよいものが適しています。元肥が入っていないものには規定量を混ぜ込んでおきましょう。容器の底には深さに応じた鉢底石を敷きますが、ハンギングバスケットやリースは土の量が少ないので入れません。

鉢はどんなタイプを使えばいい?

陶器の鉢や木製のコンテナのほか、軽くて移動が楽なブリキ容器もあります。最近ではおしゃれなデザインの鉢やコンテナが出回っているので、作りたい寄せ植えのイメージに合うタイプを選んでください。特におすすめしたいのが、取手の付いたカゴタイプのもので、つるやワイヤーでできたものは内側にココヤシ繊維のマットを敷き込めば土こぼれを防げ、ナチュラルな雰囲気仕上がりです。リース型やハンギングバスケット容器にもぜひトライして、華やかな雰囲気を楽しんでみてください。

花合わせのポイント?

大きめの鉢ならパンジー、小さな鉢ならビオラをメインにするのがおすすめです。メインに植えたいパンジー、ビオラを決めたら、同系色、もしくは反対色の小花を選びます。反対色というのは、互いに異なる色をもつ組み合わせのこと。赤やピンク系なら緑の濃淡、黄色やオレンジ色ならブルーの濃淡が反対色になります。花選びに迷った場合はイベリスなどの白い小花を利用してみてください。パンジー、ビオラの花色の邪魔をせず、美しく引き立ててくれます。

次に寄せ植えを引き締めてくれるブロンズリーフや、優しさを出してくれるシルバリーフ、動きを出してくれるハゴロモジャスミンなどのリーフを選びます。例えば、小さな寄せ植えならビオラ+ブロンズリーフ+コクリュウだけで十分ですが、冬の間、植物の成長は比較的緩やかになるので、密植ぎみにしても大丈夫です。



つちや
土谷 ますみ

東京・八王子のガーデンセンターなどで寄せ植え教室の講師として活躍。「園芸ガイド」などで寄せ植えを多数紹介され、日本全国から生徒が集まる人気講師に。2005年から始めた、旬の植物情報をアドバイスするブログ「kusakiのこの植物をお買い！」が大人気となり、それをまとめた「土谷ますみさんのこの植物をお買い！」(主婦の友社)も出版。新著に「簡単で素敵寄せ植えづくり」(ブティック社)などがある。



透明感のある淡ピンクが美しい!

ビオラ

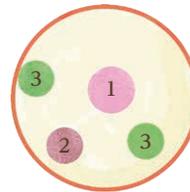
‘ビビ ピンクアンティーク’

‘ビビ ピンクアンティーク’ はまだ寒いうちから花をつけてくれ、冬から春の寄せ植えではとても頼りになります。春になり気温が上昇するとドーム形にきれいにまとまり、形が乱れないのも助かります。濃い葉色の‘プリンセススクローバー’と丸い葉が愛らしいグレコマと合わせ、ココヤシマットを敷いたワイヤーカゴに植え込みました。ビオラの透明感のあるアンティークなピンク色とよく合います。



トリフォーリウム ‘プリンセススクローバー エステル’

北欧で育種された品種で、葉の中心の濃い褐色と緑のグリーンとの対比が美しい。耐寒性があり丈夫で、ビオラと混じり合うと特にきれい。



配置図

- ① ビオラ ‘ビビ ピンクアンティーク’
- ② トリフォーリウム ‘プリンセススクローバー エステル’
- ③ グレコマ

容器のサイズ／直径23×高さ10cm
※取っ手は含まず植え込み部分のみ。

管理ポイント 冬と春、水やりはどうする?

冬の間は鉢の表面の土が乾いたら水やりします。春になったら「朝はまだ乾いてないけれど、夕方まではどうだろう」という時は迷わず水やりを。日中に気温が思いがけず上昇して外出先から戻ったらぐったりということもあります。

大人っぽくかわいらしい花色が魅力

ビオラ

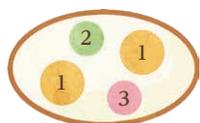
‘ビビ アプリコットアンティーク’

アプリコット色系のグラデーションというしゃれた花色が魅力のビオラは、寒いうちから小さな花が咲き、暖かくなるとびっしり花を咲かせ、元気いっぱい頼もしい限り。常緑のクレマチス・ペトリエイの黄緑色の花が咲くころにビオラも満開になります。少し変わった草花を加えることで、オリジナル性も高くなります。寒さで葉色が少しダークになったチェッカーベリーが寄せ植えの引き締め役に。



クレマチス・ペトリエイ

グリーンがかった花色がとても魅力的。ビオラと寄せ植えにするとパセリのような葉と優しく曲がった茎が一層引き立ちます。



配置図

- ① ビオラ ‘ビビ アプリコットアンティーク’
- ② クレマチス・ペトリエイ
- ③ チェッカーベリー

容器のサイズ／横23×奥行18×高さ11cm
※取っ手は含まず植え込み部分のみ。



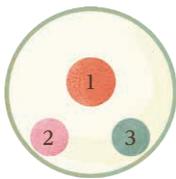


ニュアンスのある花色がしゃれた雰囲気

ウインターパンジー

‘ナチュラル マルベリー’

ウインターパンジー ‘ナチュラル’ シリーズは丈夫で耐寒性が強いので、冬の間から花がよく咲くのが魅力。花径3～4cmで寄せ植えに使いやすく、花色も豊富に揃っています。そのシリーズからシックな赤系のしゃれた花色を選び、3ポットのみで寄せ植えにしました。合わせたのは寒さで葉色が濃く変化したチェッカーベリーとコクリュウです。真っ白いブリキ鉢に植えるとビオラのアンティーク感のある花色が一層引き立ちます。やや立性なため茎が伸びて少し倒れると花が正面を向いてくれるので吊り鉢にもぴったりです。



配置図

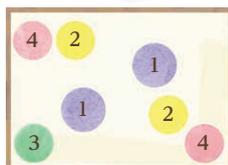
- ①ウインターパンジー ‘ナチュラル マルベリー’
 - ②チェッカーベリー ③コクリュウ
- 鉢のサイズ/直径20×高さ16cm

白い覆輪が花形をより引き立てる

ウインターパンジー

‘ナチュラル シュガーグレープ’

寒さに強い ‘ナチュラル’ シリーズから、白い覆輪と波打つ紫色の花弁が大人っぽい品種をメインに選びました。白い取っ手付きの木製ボックスにイエローの八重プリムラ、イベリスと合わせてみました。取っ手には斑入りのハゴロモジャスミンを絡ませてナチュラル感を出します。箱からあふれるように植えると以前から植えてあったようなナチュラルな印象になります。



配置図

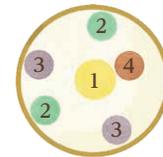
- ①ウインターパンジー ‘ナチュラル シュガーグレープ’
 - ②八重咲きプリムラ ③イベリス
 - ④斑入りハゴロモジャスミン
- ボックスのサイズ/
幅25×奥行18×高さ10cm
※取っ手は含まず植え込み部分のみ。



花色を表した花名がキュート!

ビオラ ‘クリームソーダ’

ライトブルーとクリームイエローの色合わせがさわやかなビオラ。クリームイエローに合わせてオフホワイトのブリキ鉢を選びました。前面にリボンがついたデザインは優しい雰囲気のビオラにピッタリです。白いイベリスはほかの花を上手に引き立ててくれ、黒くて細かいシダのようなレプティネラは大人っぽい雰囲気を醸します。間に株分けしたカレックスをほんの少し入れ、動きを出しています。グラス類はたくさん入れるとくどくなる場合があるので気をつけます。



配置図

- ①ビオラ ‘クリームソーダ’ ②イベリス
 - ③レプティネラ ④カレックス
- 鉢のサイズ/直径16×高さ17cm





この淡ブルー、すてきすぎです！

ビオラ‘ビビ’ヘブンリーブルー’

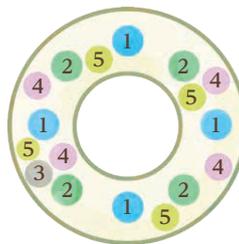
毎年新しくて珍しいビオラが園芸店に入荷しようとも、必ず一番に使いたくなるビオラが‘ビビヘブンリーブルー’です。空色の絵の具を水に溶いたような淡いブルーがクールで大人っぽい印象。どんな花色とも合わせやすいのも魅力です。ポット数を多く使い、リースの寄せ植えとハンギングバスケットを作ってみました。さわやかな壁飾りを楽しんでください。



‘ビビヘブンリーブルー’のリース



ナチュラルなカゴ素材でできたリース型にビオラを4ポット、イベリスやリーフ類と合わせて植え込みました。ビオラのクールで優しい花色は真っ白なイベリスとよく合います。春になって気温が上昇しても茎があまり伸びず、美しいままふっくらと大きくなってリースの形を保ちます。壁につるしたり、イスの背に立てかけて飾って楽しめます。



配置図

- ①ビオラ ‘ビビヘブンリーブルー’
- ②イベリス
- ③ダスティーマラー（シロタエギク）
- ④キンギョソウ ‘シルバードラゴン’
- ⑤ラミウム

カゴのリースのサイズ／直径29×高さ9cm

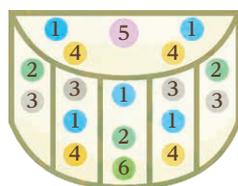


イベリス

クリアホワイトの花と濃いグリーンの葉は、どんな花とも相性抜群。冬の寄せ植えの苗選びに迷ったらイベリス、いや、迷わなくてもイベリスがおすすめです！

‘ビビヘブンリーブルー’のハンギングバスケット

ハンギング用のスリットバスケットにビオラ‘ビビヘブンリーブルー’5ポットをメインにして植え込みました。ビオラはイベリスやリーフ類と高さが合うので丸くきれいな形にでき上がります。苗をポットから外す際に根鉢の土をそれぞれ半分くらいいねいに落とすと、狭いスペースでも比較的簡単に植えることができます。ダスティーマラーとヒマラヤソケイは株分けして小さくしてから使っています。難しく見えますが、ハンギングバスケットは慣れると思いのほか手軽に作れます。美しい壁飾りにぜひチャレンジしてみてください。



配置図

- ①ビオラ ‘ビビヘブンリーブルー’
- ②イベリス
- ③ダスティーマラー
- ④ヒマラヤソケイ
- ⑤ネメシア
- ⑥ロニセラ ‘マカロン’

壁掛け用のハンギングバスケット。縦に入ったスリットに苗を通して植え込むと、バスケット全体が花で隠れるような仕上がりになる。

バスケットのサイズ／幅25.5×高さ22.5cm



苗の根元の土を落としてスリットに通していく。側面を植え付けたら培養土を加え、上面にも苗を植え付ける。水がよく通るので、土が乾燥しないようこまめに水やりする。



管理ポイント 花を長く咲かせ続けるには？

最近では晩秋に植え付けて冬の間も花が咲く丈夫な品種も多く、春までの長い期間楽しめます。そこで気をつけたいのが、寄せ植えの置き場所です。パンジー、ビオラは日なたが大好きなので、日当たりのよい場所に置くと花つきがよくなります。また、こまめに様子を観察して、くると丸くなった花からは摘み取ります。黄色くなった下葉を残しておく、風通しが悪くなって病気の原因にもなるので取り除きます。長い期間咲かせるには施肥も欠かせません。規定量の液肥を2週間に一度くらい、定期的に施すとよいでしょう。

プロの農家は どうしてる？
見た目も味も極めつき！

おいしい野菜の作り方

第12回

果菜類の育苗



教えてくれる人



あつみ ほんひさ
渥美 治久

種苗会社で野菜の育種、栽培技術指導業務に約30年間携わり、ニンジンなどの主力品種開発に貢献。退社後、静岡県浜松市で「恵み一色ファーム」設立。認定農業者として露地野菜20品目以上を生産。小学校の食育など地域活動にも貢献。

今年の果菜類は、
好みの品種をタネから育てよう！

トマトやナス、キュウリなどの夏野菜は苗から育てることもできますが、加温設備などを利用してタネから育苗することも可能。苗では出回らない珍しい種類や品種を選べ、生育のよい苗を植え付けることで収量が向上するメリットがあります。また、トレイからポット、地面へと移植することで草勢が抑えられ、過繁茂による収量低下（つるぼけ、木ぼけ）を防ぐ効果も期待できます。

1 開始時期の選定

植え付け適期から逆算する

育苗栽培のタネまきは、植え付けが可能になる最低気温10℃以上、最低気温15℃以上で遅霜の心配がなくなるころから、育苗日数を逆算してスタートします。中間地では4月下旬～5月上旬が植え付け適期です。保温と風よけのため、4月下旬から植え付ける場合はトンネル被覆、5月上旬以降は肥料などの空き袋を利用して苗を囲い（行灯）、苗の生育を保護、促進します。

渥美先生が注目する品種は？



ここでご紹介の品種はこちらから購入できます。



トマト

フルティカ®

食味を追求した人気の中玉種。裂果が少なく、完熟果が収穫できる。



ナス

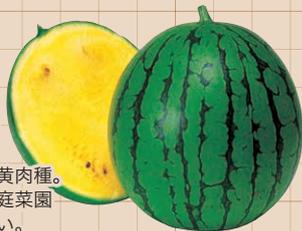
とげなし せんりょうに ごう 千両二号

栽培しやすく、料理に使いやすい。果実にトゲがないので扱いやすい。

スイカ

ニューこだま

上品な甘さの黄肉種。生育旺盛で家庭菜園でも作りやすい。



ピーマン

ピー太郎

苦みが少なく肉厚でジューシー。薄く刻んでサラダにしても美味。



果菜類のタネまき、植え付け開始時期の目安

※中間地の場合

	2月				3月				4月				5月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
ナス																
ピーマン																
トマト																
スイカ																
キュウリ																
カボチャ																

■ = タネまき(保温) ■ = 植え付け ● = トンネル栽培

2 タネまき

セルトレイに1粒ずつまく

ナス科は、128穴や200穴のセルトレイで1次育苗を行います。「タキイ たねまき培土」などの清潔な土をトレイに詰め、板で表土を平らにならした後、指などでセルに深さ5〜10mmのまき穴をあけます。空のトレイを上から均一に押しつけてくぼみをつける方法もあります。タネは1穴1粒ずつ落としますが、小さくて指でつまみにくい場合は、「タキイのタネまき器具」「カリカリくん」を使うとスムーズに行えます。



「カリカリくん」の使用例（キュウリのタネまき）。

ウリ科は、128穴や72穴のセルトレイに1穴1粒ずつタネをまき、1次育苗を行います。必要な苗数が少ない場合は、ペットボトルなどの育苗トレイで発芽させることもできます（7ページ下の「囲み記事」参照）。

培養土選びは慎重に！

育苗に用いる培養土は、原料の種類、^{ピーチ}pHの調整、添加される肥料、病原菌や雑草種子の有無などにより、苗の生育に大きな影響を与えるので、排水性、保水性、通気性に優れた用土を選ぶとよいでしょう。培養土の袋に記載されている肥料添加量のうち、特にチツソの成分量に留意します。300〜400mg/ℓ程度チツソが添加されているものは、肥効が長く続き管理がしやすいのでおすすめです。添加量が少ないと、液肥などを追肥して草勢をコントロールする必要があり、逆に添加量が多めだと生育は旺盛になりますが、徒長しやすくなり老化も早まります。



育苗に適した肥料成分がバランスよく含まれている「タキイ たねまき培土」。果菜類の育苗にうってつけ。

培養土は、大きめの容器などにあけて適量の水を加え、湿らせてからセルトレイやポットに詰める。乾燥した状態で詰めると灌水後の浸み込みが悪く、水分のムラが生じやすくなるので注意しよう。



タネまき（セルトレイ）



まき穴をあける
空のセルトレイを上から均一に押し当て、深さ5〜10mmのくぼみをつける。



土を詰める
湿らせた土をセルトレイに入れる。板切れなどで表面をならす。トレイの端の部分は土が入りにくいので、まんべんなく土を入れる。



タネは平らな皿などにあけるとよい。



タネをまく
1穴に1粒ずつタネをまく。ナス科などの小さいタネは、水でぬらしたつまようじにくっつけてまくと作業しやすい。



新聞紙をかぶせる
培養土が乾かないようトレイの上に新聞紙をかけて管理する。育苗箱の上にかぶせておくと、乾燥や小動物による食害を防ぐことができる。



覆土する
タネまき後の穴に土をかぶせる。板切れで余分な土を落として平らにする。底穴から水が出るくらいたっぷり灌水する。

温度管理と育苗日数の目安

	科名	発芽まで 発芽適温 (地温)	発芽後(育苗中)		育苗日数
			昼温 (最高気温)	夜温 (最低気温)	
ナス	ナス科	25〜30℃	23〜28℃	13〜18℃	約80日
ピーマン	ナス科	25〜30℃	25〜30℃	15〜20℃	約80日
トマト	ナス科	25〜30℃	20〜25℃	8〜15℃	約60日
スイカ	ウリ科	25〜30℃	25〜35℃	16〜20℃	約45日
キュウリ	ウリ科	25〜30℃	25〜28℃	16〜20℃	約30日
カボチャ	ウリ科	25〜30℃	25〜28℃	16〜20℃	約30日

※夜温は、段階的に下げ、昼夜の温度差をつけて徒長を防ぐ。
※植え付け直前は、夜温を10℃くらいにする（順化）。

3

タネまき後の管理

発芽までは高温を維持

タネをまいてから発芽まで、28℃前後の高温を維持することが、発芽を安定させるポイントです。タネまき時期は、発芽適温に満たない気温が続くため、28℃前後の発芽適温を維持できる加温装置などを利用し、一斉に発芽させることが重要です。加温装置がない場合は、ペットボトルの育苗容器や人肌で温めるなどして加温し（下の「囲み記事」参照）、確実に催芽^{さいが}や1次育苗をしてからポットに鉢上げします。発芽が揃った後は、夜間の最低温度

発芽直後に新聞紙を外す

が15℃程度で生育に問題はありません（温度管理の目安は6ページ参照）。
タネまきの2〜3日後くらいから発芽し始めたタネが培養土を押し上げて表面が盛り上がりつつあるので、速やかにふたと新聞紙を外します。タイムミンクが少しでも遅れるとすぐに徒長してしまうので、よく注意して子葉が出る前に取り除くことがポイントです。発芽後、培養土の表面が乾いてきたら軽く灌水します。温度管理は夜温を徐々に15℃程度まで下げて徒長を防止します。日中は30℃を超えたら換気し、気温上昇による徒長を防ぎます。

家庭で育苗する場合のヒント

低温期にタネをまいて発芽させるには、高温を維持するための加温装置や被覆資材、温度をコントロールするサーモを利用すると便利です。苗が少量なら小型の加温育苗器^{あひさいが}「愛菜花」、セルトレイで大量に育苗するなら「保温育苗パーフェクトドームセット」「ひなたぼっこ春夏秋冬セット」などを利用し、自分の環境に合った設備を導入するのをおすすめです。環境を制御し、収穫期の幅を広げる醍醐味^{だいご}を味わえます。



加温装置や被覆資材などがセットになった「保温育苗パーフェクトドームセット」。

【花と野菜ガイド 2023年春号】 p. 275で販売。

マスクを使った催芽

自分の体温を利用して、懐で発芽させることもできます。不織布マスクを加工して首から胸の辺りにつるすようにすると動いてもあまり気にならず、体温もよく伝わります。肌身離さず身につけ、発根してきたら（白い根が少し出てきたら）ポットに鉢上げします。



① 小さなレジ袋の持ち手部分を切り取って中に入れ、折りたたむ（酸素が必要なので密閉しないようにする）。



② 水にぬらしたキッチンペーパーにタネを並べて包む（写真はスイカ）。



③ 首から服の中の胸の辺りにつるし（マスクが地肌に当たるようにする）、体温で温める。発根したらすぐに取り出して鉢上げする。



④ 不織布マスクの端を切って袋状にし、②を入れる。ゴムひもをつなげてつるせるようにする。

ペットボトルを利用した催芽^{さいが}

少量のタネをまく場合、2ℓのペットボトルを使って小型の育苗容器を自作すると便利です。1ケースにタネを6〜8粒並べてまくことができ、ボトルの上部を切ってかぶせるとミニ温室になります。日中暖かな日当たりのよい所にミニ温室を置けば、内部の温度を30℃くらいに上げることができ、夜間暖房の効く屋内に移動すれば、加温設備なしでも1次育苗することができます。



① 下部の底に10カ所ほど排水用の穴をあけて湿らせた培養土を詰める。2〜3cmの間隔をあけ、タネを1cmほどの深さに押し込む（写真はカボチャのタネ）。



② 2ℓのペットボトルを用意する（中央よりやや上に凹みがあるものがよい）。カッターで下から8cm位の所と、凹みの部分をカットして上部と下部のパーツを作る。



③ 2〜3日で発芽する（写真はキュウリ）。ナス科は本葉2枚、ウリ科は子葉が開いたら根を崩さないように振り上げ、ポリポットに鉢上げする。



④ 30℃以上になったら、上部のボトルを外すか、ボトルのふたを開けるなどして換気する。夜間は室内の暖かい場所で管理する。



⑤ 温度計をセットし、上部のボトルをかぶせてミニ温室にする。日当たりのよい所に置き、28〜30℃を確保する。極端に土が乾かなければ水やりは不要。

4 植え付けまでの管理

鉢上げして大きく育てる

苗の成長に伴い、鉢上げ（植え替え）をして根や葉の成長を促します。ナス科の鉢上げは、セルトレイの苗の本葉が2枚展開したころ、培養土を詰めたポリポットに植え穴をあけ、挿し込むように植え付けます。

ウリ科の鉢上げは、子葉が展開したころ、培養土からていねいに掘り上げ、指で穴をあけたポットに植え付けます。

9〜15cmポットが使いやすい

ポリポットの直径は、育苗期間の長いナス科は12〜15cmのものを、ウリ科は9〜12cmのものを鉢上げし、本葉4〜5枚のところに12〜15cmのポットに移植してもよいでしょう。ポットが小さすぎると、根が回りすぎて老化が早まり、植え付け後に活着しにくくなります。



鉢上げ

苗の根元付近を指でつまみ、根を崩さないようにそっと引き上げる（写真はトマト）。



培養土を詰めたポリポットに植え穴をあけ、植え付ける（写真は直径9cmのポット。本葉4〜5枚で12〜15cmのポットに移植してもよい）。



鉢上げ後は、育苗トレイなどに並べて管理する。

ずらし

隣同士の葉が触れ合うほど成長したカボチャ苗。



徒長を防ぐために間隔をあけ、全体に日光が当たるようにする。



ぎると、根が回りすぎて老化が早まり、植え付け後に活着しにくくなります。

(左) 9cmポットで育苗したトマトの根。根が回りすぎて老化した、やや黄色化している。

(右) 12cmポットのもものは根の回り方が適度で、根量が多く、白くて健全。



鉢上げ後はポットに十分灌水して活着を促します。活着後の灌水は、午前中にたっぷりを行い、午後はしおれない程度に控えるにして、夕方にはポットの表面が乾く程度に管理します。

「ずらし」と「順化」

苗が成長してきたら、隣同士の葉がなるべく重ならないように間隔をあける「ずらし」作業（スペーシング）を行います。

行い、徒長を防ぎます。

また、鉢上げ後の温度管理では夜温を徐々に下げていきます。植え付けの5日前からは日中も強めの換気を行い、植え付け後の環境変化に耐えるよう、段階的に「順化」を進めましょう（温度管理の目安は6ページ参照）。

苗の様子を見て追肥する

苗の葉色が薄い、葉が小さいなど肥料切れの症状が見られたら、規定倍率に薄めた液肥を灌注します。また、植え付けの直前にも液肥を与えておくと、苗の活着がよくなります。

ナス科の植え付け適期は、1番花の状態を目安に、ナス、ピーマンは開花直前（蕾）、トマトは咲き始めたころとなります。ウリ科は本葉展開枚数を目安に、スイカ4〜5枚、キュウリ2〜5〜3枚、カボチャ3〜5枚のころが適期となります。

ポットと苗の大きさの目安

	科名	鉢上げ後のポリポットの大きさ(直径)	植え付け適期の苗の状態
ナス	ナス科	12〜15cm*	1番花開花直前(蕾)
ピーマン	ナス科	12〜15cm*	1番花開花直前(蕾)
トマト	ナス科	12〜15cm*	1番花咲き始め
スイカ	ウリ科	9〜12cm	本葉4〜5枚
キュウリ	ウリ科	9〜12cm	本葉2.5〜3枚
カボチャ	ウリ科	9〜12cm	本葉3.5枚

*本葉4〜5枚のころ9cmポットから12〜15cmポットに移植してもよい。



ナス



ピーマン



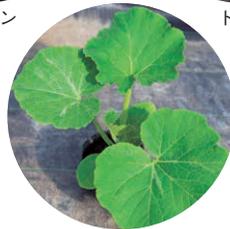
トマト



スイカ



キュウリ



カボチャ

植え付け適期苗